

目標達成計画

作成日: 平成28年1月20日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	ホーム周辺の環境は、小中学校の通学路となっており、挨拶や手を振る場面はあるが、中々触れ合う場面が少ない。	①ホームが子供たちの集う場になり、高齢者との交流が出来る。 ②子供たちの安全な登下校と避難場所として、地域の方との協働で取り組む。	①子供たちの登下校時の声掛けや見守りを利用者と共に行う。 ②子供たちに高齢者の理解を深めるために、認知症サポーター養成講座や「老いる」ことの意味を学ぶ機会をつくる。 ③学校行事への参加により、利用者との触れ合う機会をつくる。	24ヶ月
2	3	運営推進会議の参加率は毎回高いが、地域との協働の企画や実践が少ない。	地域の資源の発掘や機能を深めて、連携を図りながら、地域づくりを共に行う等、事業所から発信し、地域行事や地域住民との交流を通して、新しい地域づくりを構築する。	①民生委員さんたちへの介護教室の開催 ②地域で行われる様々な行事への積極的な参加 ③事業所で開催する研修会への地域住民の参加 ④地域から必要とされる事業所や人材としての意識を高める指導を行う。	12ヶ月
3	8	グループホームに入居したことにより、馴染みの関係や社会とのつながりが乏しくなっている。	馴染みの場所や友人や知人との関係性を一定に保っていききたい。	①面会等で得たご本人の馴染みのある情報を、朝のユニットミニカンファレンスで共有する。 ②得た情報をアセスメントシートに落とし込む ③遠方のご家族、知人の方で許可をいただける方には、ご本人に電話等の方法を用いて、交流支援を行っていく。	12ヶ月
4	9	職員配置は、どの事業所よりも多いと自負してはいるが、個別ケアの展開が弱い。また、リスクに対する十分な教育が出来ていない。	①個別ケアアプローチの向上。 ②入居者の方の力を見出す環境づくりを目指す。	①日々のケアを振り返り、「考えるケア」を確立するための研修を行う。 ②ご家族と協働した事業所の運営を考え、スタッフと共に、想いや能力を確保できるように協力依頼し事業所としての取り組みを行う。 ③生活空間の重要性和安心ある環境を提供できる人材の育成のために「その人にとって」を考えた個別視点を養うための研修開催。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。